

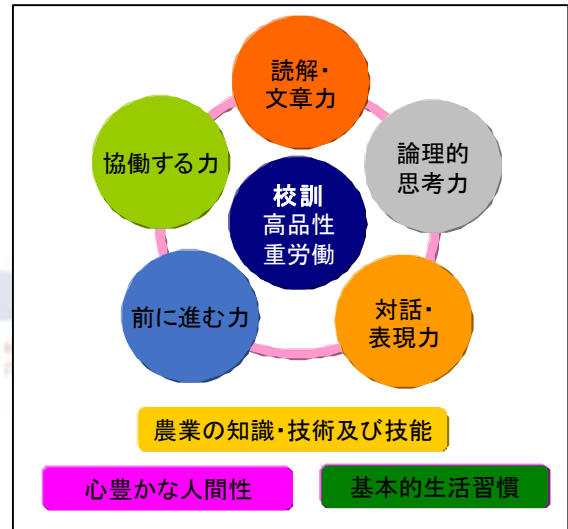


## ～必見！磐田農業高校の取組～

磐田農業高校では令和元年度から総合教育センターの研究協力校として、授業設計診断4項目に基づいた授業づくりと学習評価の充実に取り組んでいます。今年度の校内研修では、学校で育成すべき8つの資質・能力を明確にし、資質・能力の育成を目指した授業改善を進めています。

### 【令和2年度の取組】

- 質問紙調査1回目(6月)
- 第1回研修会(令和2年6月12日)  
「カリキュラム・マネジメントの導入①」
- 教室文化の診断(9月)
- 第2回研修会(令和2年9月25日)  
「カリキュラム・マネジメントの導入②」
- 第3回研修会(令和2年11月17日)  
「授業改善のための学習評価①」
- 第4回研修会(令和3年1月19日)  
「授業改善のための学習評価②」
- 質問紙調査2回目(1月)



▲磐田農業高校で育成を目指す8つの資質・能力

### (1) 第1回研修会

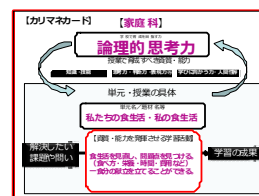
8つの資質・能力を発揮する場面や活動を、マンダラチャートによって整理しました。その上で、「発揮させる場面を与えることができていない資質・能力はなかったか?」、「これからどのような教育活動をしていくべきなのか?」などについて協議し、全体で共有しました。マンダラチャートの記述を整理すると「前に進む力」などは部活動や進路指導で育成していると考える教員が多く、授業で育成していくことを考えにくい資質・能力もあることが分かりました。

協働する力	読解・文章力	論理的思考力
前に進む力	高品性重労働	対話・表現力
心豊かな人間性	農業の知識・技術	基本的な生活習慣

▲マンダラチャート

### (2) 第2回研修会

カリマネカードを用いて「論理的思考力」を授業の中で発揮させる場面(単元)を考えました。作成したカリマネカードは学年ごとの授業研究構想図に添付し、教科横断で資質・能力を育成していく視点を共有しました。研修のまとめでは、8つの資質・能力を授業の中で育成していく視点として、例えば、授業の中に振り返りを行う場面を設けると、「前に進む力」の育成につながることを理解しました。



▲カリマネカード(左)と授業研究構想図(右)

### (3) 第3回研修会

学習評価をテーマとし、第2回研修で想定した単元（場面）での「学習の成果」を考える演習を行いました。演習ではワークシートを用いて「問い」、「評価規準（B）」、「B評価になる生徒の記述」を具体的に考えました。

### (4) 第4回研修会

評価計画を考える演習を行いました。教科ごとに単元を選び、研修員各自でその単元における評価の場面と方法を考えました。評価計画を作成した後、教科内の協議によって課題を見いだすことができました。

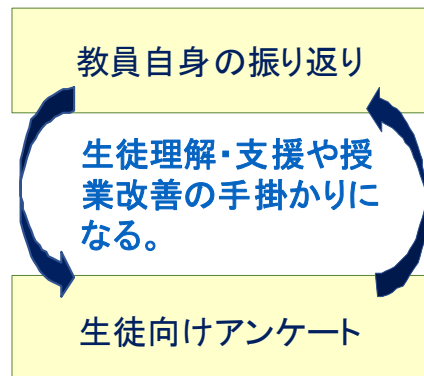
単元（題材）の学習内容	生徒の活動	評価規準（評価の方法）	観点
○運動の法則 ・力のそのはたらき ・力のつり合い	小テスト	(小テスト)	(知)
・運動の法則	グループワーク → 個人 (宇宙空間で大きな岩を蹴ったらどうなるか?)	授業で学んだことを関連づけて記載 (ワークシート)	(思)
・摩擦を受ける運動		実験結果についてその理由を考察 (実験プリント)	(知)(思)
・液体や気体から受ける力	浮力の実験		
	単元の振り返り	新たな疑問の記載 (ワークシート)	(主)

※ (知)=知識・技能、(思)=思考・判断・表現、(主)=主体的に学習に取り組む態度

#### ▲理科で選んだ単元のワークシートの記入例（「物理基礎」）

### (6) 教室文化の診断

教室文化とは、子どもが学級において共有している行動様式のことを言います。生徒向けのアンケートとして実施することが、学級（学習集団）の様子をつかみ、生徒理解・支援や授業改善の手掛かりにできるという効果につながることを想定しています。全生徒を対象に実施した結果、「教室における安心感」に係る項目の上昇率が高くなっていました。研修によって醸成された授業改善への意識が、生徒の意識にも影響を与えていることが示唆されました。



### (7) 来年度の取組

#### ○生徒の表れを根拠にした授業研究の充実

教員の協働的な学びを促進する定期的な授業検討会の実施により、組織で「指導と評価の一体化」の実現を目指します。

#### ○「授業改善への意識」と「教室文化の醸成」との関連を検証

磐田農業高校の取組に照らし、校内研修推進との関連性について考察して行きます。

（今回は高等学校支援課が担当しました。）

評価する観点	思考 判断 表現
問い	「小学生のための給食コンクール」に応募する、一汁一菜の献立を考え、どのような献立を考えたのか理由とともに説明しなさい。
ルーブリック	A (Bの内容に加え) 彩りを考えたり、同じ調理方法を用いないなどの工夫も考えている。
	B 小学生の身体などの特徴や栄養上の留意点などに配慮しながら献立を作成している。
	C Bの規準を満たしていない。
B評価になる生徒の記述	小学生は成長や活動が活発であり、タンパク質やカルシウムが必要なので、それらを多く含む木綿豆腐を主菜に使うことにした。（豆腐ハンバーグ）

#### ▲家庭科で選んだ単元のワークシートの記入例（「家庭基礎」）

### (5) 質問紙調査

質問紙調査を分析したところ、研修で扱った内容につながる質問項目の上昇率が高く、授業設計診断の活用機会増加や学習評価への意識向上が読み取れました。継続的な校内研修の実施によって、授業改善や学習評価にかかる組織的な意識改革を進めることができました。学校の実態やニーズに応じて、効果的に校内研修を計画・実施することについて示唆を得ました。